

【資料】 苦痛の評価

動物実験処置によって動物が受ける苦痛についての判断基準が幾つかあるが、よく知られているものの1つが、Scientists Center for Animal Welfare (SCAW)が作成した苦痛分類である。

SCAWの動物の苦痛に関する審査基準

カテゴリー	例
A 生物個体を用いない実験あるいは植物、細菌、原虫、又は、無脊椎動物を用いた実験	生化学的研究、植物学的研究、組織培養、剖検により得られた組織を用いた研究、屠場から得られた組織を用いた研究など
B 脊椎動物を用いた研究で、動物に対してほとんど、あるいは全く不快感を与えないと思われる実験操作	動物をつかんで保定する、採血などの簡単な処置、身体の検査や計測、深麻酔下で処置し、覚醒させずに安楽死させる実験、短時間の絶食絶水、急速に意識を消失させる標準的な安楽死法など
C 脊椎動物を用いた実験で、動物に対して軽微なストレスあるいは痛み（短時間感じる痛み）を伴う実験	麻酔下での血管の露出やカテーテルの長期間留置、行動学的実験において、意識ある動物に対して短時間のストレスを伴う保定（モンキーチェアによる実験など）、麻酔下における外科処置で、処置後も多少の不快感を伴うもの（処置後の苦痛が軽微な開腹手術、開頭手術等）など
D 脊椎動物を用いた実験で、避けることのできない重度のストレスや痛みを伴う実験	行動面に故意にストレスを加え、その影響を調べること。麻酔下における外科的処置で、処置後に著しい不快感を伴うもの（処置後の苦痛が顕著な開腹手術、開頭手術等）。苦痛を伴う解剖学的、生理学的欠損あるいは障害を起こすこと、長期間（数時間／それ以上）にわたって動物の身体を保定（モンキーチェアによる実験など）、麻酔薬を使用しないで痛みを与えるなど
E 麻酔していない意識のある動物を用いて、動物が耐えることのできる最大の痛み、あるいはそれ以上の痛みを与えるような処置	麻酔薬を使わず筋弛緩薬等だけで手術を行う、精神病のような行動を起こさせること、避けることのできない重度のストレスを与えることなど

参照文献

1. Consensus Recommendations on Effective Institutional Animal Care and Use Committees (Laboratory Animal Science, Special Issue pp.11-13. Jan. 1987)
2. 国立大学動物実験施設協議会 動物実験処置の苦痛分類に関する解説 2004.